佳作　父と母の声～大草原から～

ドルジスレン　デルゲルツェツェグ
DORJSUREN DELGERTSETSEG
国　　籍　モンゴル
職　　種　介護
実習実施者　医療法人ハイネスライフ
監 理 団 体　ＧＴＳ協同組合

介護の仕事をする上で、一番心配することは、認知症のお年寄りとどうコミュニケーションをとるかです。私は子供の時、母の医院によく連れていかれました。精神科医の母は、一般社会では暮らせない精神病者を、自分の医院で預かっていました。その様子は昨日のことのように覚えています。母はいつも精神病者を自分の子供のように扱おうと、優しく面倒をみていました。睡眠薬がないと眠れない患者には、自分の子供に歌うのと同じ子守歌を歌っていました。不思議にも、精神病者は母の歌を聴くと落ち着いて、よく眠るのです。

私は今、長野市の療養病床のある病院に務めています。寝つきの悪い患者には、母に教えてもらった子守歌を歌ってあげます。モンゴル語は全く分からないのに、落ち着いた様子で眠りに落ちます。今では、私の声を聞くだけで笑顔になり、中には涙を流す人もいます。日中、介護士３人がかりで、やっとおむつ交換ができる動きの激しい患者がいます。ところが、私が夜勤の時、小さな声でモンゴルの子守歌を歌うと、おとなしくなって、一人でもおむつ交換ができてしまいます。

私がながの病院に来た時に、可愛いいおばあちゃんがいました。おつきあいは、もう２年です。Ａさんはほとんど話せません。私とのコミュニケーションは目でした。私は目で「今は寝る時間です。寝ましょう。休みましょう」と合図します。モンゴルのメロディーに合わせて日本語で歌うと、すぐ眠りにつきます。ある日のことです。いつも通りＡさんに、子守歌を歌っていると、隣のベッドのおじいさん（Ｂさん）が「私にも歌ってくれ」と言うのです。日本語にできるところは日本語で、できないところはモンゴル語で歌いました。笑顔で聞いてくれました。

翌朝Ｂさんは「あなたの夢はなに？」と聞くのです。私は「ここの病院のような療養ベッドのある施設をモンゴルに作りたい」と答えました。モンゴルには、まだ、日本のような介護技術や施設がありません。いずれ日本のような進んだ介護が必要になります。Ｂさんは「あなたの心はモンゴルの子守唄のようにやさしい。夢は必ず叶います。」嬉しかったです。「帰国の時、今の気持ちを持ち帰って下さい」と励ましてくれました。

父が馬に乗りながら歌うモンゴルらしい草原の歌、母が歌う優しい子守歌。「どんな時も、どんな人にも優しく」と父の口癖が私の耳に、「父の声」で聞こえました。「子育てが下手な動物でも、優しく子守歌を歌えば、生まれたばかりの子にたっぷり乳を飲ませるの」と今度は「母の声」が聞こえました。

休み明けの日、Ｂさんは旅立っていました。優しかったＢさんは、家族と遠く離れて一人で暮らす私に、父母の声を天国から届けてくれたのでしょう。有難うございました。ゆっくりお休み下さい。いつかモンゴルで夢を叶えるため、長野で頑張ります。